第４章　影響評価

１．海面上昇による影響が想定される施設と影響項目

海面上昇による影響評価の検討対象一覧

検討分野	対象施設	影響項目	想定される影響
海岸	堤防・護岸	天端高の不足	前面水深の増大により天端高が不足し、背後地への越波が生じ易くなる。
	沖合消波施設（離岸堤・人工リーフ等）	堤体の安定性低下	前面水深の増大により堤前波高等が増大し、ブロックが沈下、散乱し易くなる。
	砂浜	砂浜の減少等地形変化の発生	直接的に砂浜が減少するなど地形変化が発生する（海岸侵食）。また、利用可能な砂浜面積が減少する。
河川	堤防	流下能力の低下	出発水位の上昇により、計画高水位の上昇が懸念される。
	水門等	水門等天端高の不足	水門等の天端高が不足し、出水時に越流する可能性がある。
	排水機場	排水能力の低下	出水時に放水先水位が上昇するために揚程が大きくなり、排水能力が低下する可能性がある。
	橋梁	桁下の余裕高不足	桁下の余裕高が不足し、出水時の橋梁の安全性に影響が出る可能性がある。
	取水口	取水塩分の高濃度化	塩水の遡上に伴い、淡水の取水が困難になる可能性がある。
港湾	岸壁	堤体の安定性の低下	前面水深の増加に伴い、外力(動水圧等)・浮力が増大し、安定性が低下する。
		天端高の不足	水位の上昇による天端高不足に伴い、背後域の浸水及び船舶の係船・荷役などの利用に支障をきたす可能性がある。
	護岸	堤体の安定性の低下	前面水深の増加に伴い、外力(動水圧等)・浮力が増大し、安定性が低下する。
		天端高の不足	背後域が浸水する可能性がある。
	防波堤	港内静穏度の低下	水位の上昇により、越波・伝達波が増大する。
		堤体の安定性の低下	前面水深の増加に伴い、波力・浮力が増大により安定性が低下する。
下水道	下水処理場	自然流下能力の低下	放流先水位が高くなり、自然流下能力が低下する可能性がある。
	ポンプ場	排水能力の低下	放流先水位が高くなり揚程が大きくなるため、排水能力が低下する可能性がある。
道路	道路	越波、冠水頻度の増加	海岸に面した道路では、越波、冠水頻度が増加する可能性がある。

検討海面上昇値としては

①０．１０m　②０．３０m　③０．５０m　④０．９０m

の４ケースを設定し、各施設に対する影響の検討を行った。